

トルコ為替週報

2022年3月29日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (3月22日～3月28日)

USD/TRY: 14.8050～14.8690
TRY/JPY: 8.12～8.41 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、日々、上下動を繰り返しながらも、対ドルでは方向感の乏しい横ばい。対照的に、対円ではほぼ一方的な堅調推移を続けた。金融市場全般の注目は、引き続き、ウクライナ情勢に集まっていた。武力衝突と対口制裁に解消の糸口が見えない状況は、燃料・食品価格急騰という意味で、(トルコに限らないものの)物価押し上げ、成長阻害要因と言えし、トルコが観光立国でもある事実を鑑みれば、成長阻害、経常収支悪化という目線でも、とりわけ悪材料と言えたはず。ただ、こうした環境に、この間特段の変化がなかった一方で、もう一点、目を引いたのは世界的な長期金利上昇。米連銀パウエル議長が+50b.p.幅の利上げの可能性を示唆したり(21日)、鳩派で知られるミネアポリス連銀カシカリ総裁までもが「年内に+25b.p.利上げを7回(あと6回)実施」との予想を示したこと(24日)などが、米だけでなく世界的な長期金利押し上げに寄与した。長期金利上昇そのものは、経常赤字ファイナンスを高金利債券に頼るトルコのような国にとっては通貨安要因と言えたはずだが、並行してトルコ長期金利も相応に上昇したことで、リラへの影響は限定的にとどまったようだ。対照的に明確に売込まれたのが円で、実際に物価が相対的低水準にとどまる事実や、日銀黒田総裁が「金利を上げる必要は全くない」と述べていたこと(18日)などが一方的な円全面安進行を加速させたものと考えられた。この間、対ドルでの円安(高値→安値)は、一時-4.5%にも及び、リラの対円での一方的な上昇も、円安の結果と位置付けることができた。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/25	7:00	設備稼働率	3月	77.3%		76.6%

〈向こう2週間の見通し〉 (3月29日～4月11日)

USD/TRY: 14.750～15.050
TRY/JPY: 8.10～8.40

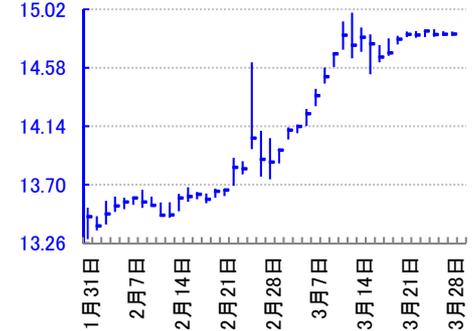
向こう2週間のトルコ・リラ相場は、方向感に乏しい横ばいを中心に予想。仮に値幅が出るとしたら、引き続きリラ安方向を警戒する。上述の通り、日々相応の上下動は見せたものの、この間、リラそのものの値動きに方向感は感じられなかった。ウクライナ情勢などに目を奪われ、トルコ政治・経済などに対する市場の関心が削がれているということであろう。ただし、目先は、2月貿易・経常収支や3月CPIなどトルコの注目経済指標の発表が並ぶ。やはり上述した通り、物価上振れ、貿易・経常収支悪化の条件は整いつづけるほど整っており、万が一、予想外に「良好」な数字が出たとしても、単月の数字が、そうした(悪化を見込んだ)思惑をひっくり返す可能性は考え難く、逆に「悪い」数字が出た時には、「やはりそうか」という非対称的な反応が予想されるものと考えられる。リラは材料視しなかったようだが、トルコ中銀は、22日、為替差損補填リラ預金に手数料を果たすことを認めた。預金者向けに当該商品を提供する金融機関が賦課することができる手数料を意味するものと思われるが、それ以上の詳細は不明。①通常のリラ預金よりも金利が低い(政策金利=現行14%)、②為替差損補填は3%ポイントまでという悪条件の商品に、そもそも、誰がお金を預けるのか不思議だったが、その上③手数料も課されるという。12月末に預け入れられた3ヵ月物預金は、3月末に次々と満期を迎えるはずだが、もう2週間も待てば、満期を迎えた預金がどこに向かったのか(通常のリラ預金、為替差損補填リラ預金、外貨預金など)、おそらく、明らかになるのではないかと。もっとも、それも、トルコ当局の発表が「信頼できれば」という前提での話になろう。

〈向こう2週間に発表予定の主要経済指標等〉

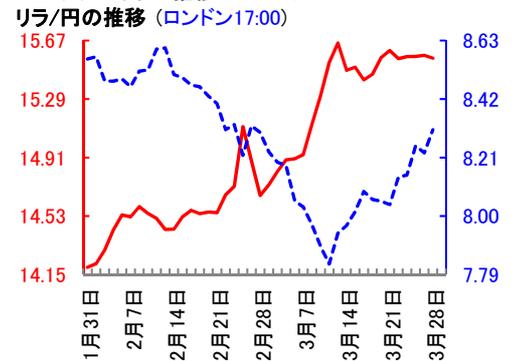
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/31	7:00	貿易収支(USD)	2月	-8.10bn	-10.26bn	
4/4	7:00	CPI(前年比)	3月		+54.44%	
4/8	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	4月		+26.43%	
4/11	7:00	経常収支(USD)	2月	-7.11bn		
	7:00	失業率	2月		11.4%	

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

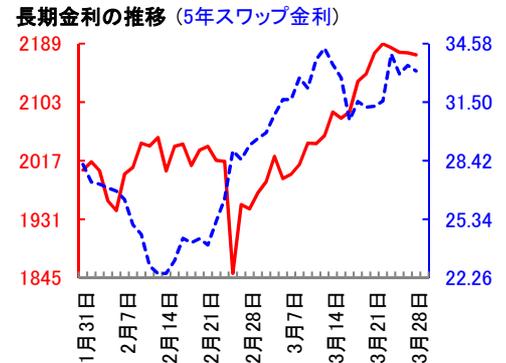
USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q4	+9.1%
失業率	1月	11.4%
消費者物価(前年比)	2月	+54.44%
鉱工業生産(前年比)	1月	+7.6%
小売売上高(前年比)	1月	+7.9%
貿易収支(USD)	1月	-10.26bn
経常収支(USD)	1月	-7.11bn

〈お知らせ〉

筆者休暇のため次回の「トルコ為替週報」は4月12日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。